

## 小学校外国語活動における「桃太郎」を使った授業 展開 -英語劇化への過程と民話としての側面-

著者	西崎 有多子
雑誌名	東邦学誌
巻 号	41 3
ページ	1-21
発行年	2012-12-10
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1532/00000283/">http://id.nii.ac.jp/1532/00000283/</a>

小学校外国語活動における「桃太郎」を使った授業展開  
—英語劇化への過程と民話としての側面—

西 崎 有多子

愛知東邦大学

# 小学校外国語活動における「桃太郎」を使った授業展開 —英語劇化への過程と民話としての側面—

西 崎 有多子

## 目 次

1. はじめに
2. 英語劇化に伴う問題点
3. 英語劇化の前に
  - 3.1 ストーリー
  - 3.2 グループ分け
  - 3.3 台本（セリフの決定）作り
  - 3.4 劇の準備
4. 英語劇化とオリジナル度
  - 4.1 基本となるセリフ
  - 4.2 オリジナル度
5. 外国語活動における英語劇
  - 5.1 学習指導要領
  - 5.2 コミュニケーション度
  - 5.3 英語教育
6. 民話としての「桃太郎」
7. 絵本にみる「桃太郎」の比較
  - 7.1 15冊の「桃太郎（ももたろう）」
  - 7.2 ストーリーの多様性
8. おわりに

## 1. はじめに

前稿「小学校外国語活動におけるオリジナル劇の可能性—新教材“Hi, friends!”より『桃太郎』を使って—」では、『英語ノート2』での「おおきなかぶ」と「桃太郎」の比較、オリジナル劇の実践例、指導上の留意点、効果、活用と可能性などについて述べた。その後、各方面から“Hi, friends! 2”のLesson 7 “We are good friends.”についての指導案も発表、刊行されている。しかしながら、実際に小学校でLesson 7の授業を行なう場合、他のLessonと同様にそのまま指導案を使って授業ができるだろうか。指導案は指導の案であり、実際には現場で指導する教師が児童の実態に合わせて最善かつ現実的な指導を行うのが当然であるが、Lesson 7においてはそれ以上の特別な準備や配慮が必要となる。本稿では指導案にはあまり書かれていない部分について補足を試みると共に、「桃太郎」は民話として奥が深く、日本の伝統文化の一つとして発展的に活用することも可能であるため、「桃太郎」についても論じることにしたい。

## 2. 英語劇化に伴う問題点

「桃太郎」を英語劇化するための他のLessonとは異なる様々な準備や配慮については、大きく分けると、劇をすることに対する準備と英語で行うことに対する準備の両方が同時に求められる。2年間の外国語活動の中で、このLesson 7ほど学級担任主導の指導が求められるLessonはないと思われる。外国語活動の総仕上げという点においても、卒業に近づく時期での学級経営においても、大切な機会となるだろう。児童にとって楽しくかつ達成感を感じるよい思い出となるようにしたい。

問題点を少なくするためには、まず第一に楽しく、かつ負担が大きくなりすぎないようにすることが、児童にとっても教師にとっても必要である。Lesson 7の配当時間数は6時間となっている。学級担任主導で指導する場合は、グループ毎の自主練習などちょっとした時間を見つけて練習することも可能ではあるだろう。しかし、原則的には6時間を大幅に超えなければできない規模やレベルの英語劇にはしないことである。もう少しセリフが多くても、もう少し劇が長くてもよかったと思うレベルでよい。前稿でも述べたが、凝りすぎると問題点も増えてしまうことになる。

劇の内容、劇の長さ、グループ分け、配役、セリフの作成、セリフの練習、全員参加のための配慮、発表の場の設定、劇の道具など実際に授業を進める上で、課題は多い。Lessonを始める前に、児童の実態を一番理解している学級担任が綿密な計画を立てることにより、これらをうまく乗り切り、英語劇をとおして外国語活動の成果がより大きなものとなることが期待される。

## 3. 英語劇化の前に

英語劇に限らず、劇をするには必要な準備がある。一部の小学校においては、以前に比べて小学校で劇をする機会は減っていると聞く。児童は劇にそれほど慣れていないことも想定される。劇に対する準備の良し悪しは、劇全体の良し悪しに影響することになるため、学級担任は児童の実態に合わせて、ひとつひとつの課題を児童にとって気持ちよく決定できるよう、慎重かつ必要に応じて大胆に、導いてほしい。

### 3.1 ストーリー

ストーリーについては、「桃太郎」を基本とするのか、「桃太郎」の一部を変更してオリジナル劇化するのか、「桃太郎」のストーリーの一部を最低限用いながらオリジナル劇化するのかなど、可能性は無限にある。グループ毎に独立したストーリーにする方法の他に、一つのストーリーをグループで分割して全体で一つとして演じることもできる。

児童がオリジナル劇を考える上での教師からの設定として次のような実践例がある。2011年度岐阜県本巣市立真桑小学校の場合は、『かぶ』に代わる別の物を求めてメンバーで協力して目的を達成する」とされ、2007年度北海道教育大学附属旭川小学校では、教師が提示した中で「サザエさん」をベースに設定、加古川市立野口北小学校では、関西ならではの設定として「最後にオ

チ」が求められ、オリジナル劇化がなされた。

秋山（2010）は、英語劇の教材として適する条件を次のように挙げている。

- 「① 単純明快なストーリー
- ② 繰り返し表現・対比表現があるもの
- ③ リズム感がいいもの
- ④ メッセージ性があるもの

こうした条件をほぼ満たすものとして、昔話・おとぎ話は英語劇の教材として最適なものと言える。」〔1〕

①～④の条件の一部を設定に使用することも考えられる。

ストーリーのオリジナル化のレベルについての具体例は後述する。

### 3.2 グループ分け

グループ分けは、児童にとって大きな問題でもある。学級担任は英語劇化にあたり、クラスの実態に合わせたもっともふさわしいグループ分けを考える必要がある。既存のグループをそのまま、または組み合わせる劇のグループにすることもできるであろうし、改めて劇のためのグループを作ることもあるだろう。上述した野口北小学校では、男女それぞれで児童同士でグループを決めさせてから、男子のグループと女子のグループを1つずつ組み合わせて劇のグループとしたが、その組み合わせについてはクラス全体で話し合っただけで決めたという説明があった。

グループ分けのタイミングについては、ある程度セリフが決まってから行うのか、全く決まっていないうちで行うのかも難しい面がある。必ず一人に最低一回のセリフを設定するためには、登場人物の人数やセリフの数などを考慮しなければならないからである。オリジナル劇をグループ毎にストーリーから考えさせる場合は、グループの人数に応じてストーリーとセリフを作っていく配慮が求められる。グループの数とメンバーの人数についても同様に考慮すべき点が生じる。

### 3.3 台本（セリフの決定）作り

文字指導を前提としていない外国語活動において、英語でセリフが書かれた台本は作らないことが基本となるだろう。しかしながらカタカナでセリフを書いたメモを見ながら演じるのは、望ましくない。そのような負担が児童にないように、予め工夫をすべきと考える。

オリジナルのセリフは、よく使われる言い回しであるなど英語としての間違いがないことが明白であればよいが、そうでない場合は、ALTなどにチェックしてもらう必要が生じる。セリフはすべての児童ひとりひとりに用意されるべきである。いろいろな状況が考えるため、数字を挙げることに意味があるかどうかはわからないが、一人当たり最大で3つのセリフ、各グループによる劇は最大で5分以内にしたい。負担のないように、読み合わせと立ちげいこで覚えらる範囲内のセリフと立ち回りを原則にしたい。

### 3.4 劇の準備

外国語活動として英語劇を行なう場合は、道具や衣装などの準備は負担が大きいため最小限としたい。ただし、発表が学芸会や文化祭など特別な機会に行なわれる場合は、外国語活動としての6時間の配当時間を越えて準備ができることもあり、より児童の感性を生かした準備に期待することができる場合もあるだろう。

しかし基本的には、児童に衣装や道具がほとんどなくても劇の効果を最大にするにはどうすればよいかを考えさせることが大切である。観客の立場に立って考えさせ、どうすればセリフに込めた気持ちが観客に伝わるのか、声の大きさ、高さ、言い方、顔の向きなどいろいろと試してグループ内で検討させることが必要である。自分の気持ちをよりよく伝えるためには、相手のことを思いやった上で伝えたいセリフを効果的に言う必要があることを体験的に理解させるよい機会となる。

## 4. 英語劇化とオリジナル度

### 4.1 基本となるセリフ

「桃太郎」を劇化する場合、どの程度オリジナル劇化するのがポイントとなる。“Hi, friends! 2”には、セリフにあたる英文が記載されている。外国語活動においては、文字使って英語を書いたり読んだりする活動はないので、記載されているセリフを読んだりする必要はないのは言うまでもないが、記載されているセリフを基本のセリフ（以下、「セリフ1」と記載）として基準にすることになるだろう。また、Let’s Listenで聞くことができるセリフ（以下、「セリフ2」と記載）も参考にすることができる。デジタル教材を使って、繰り返し聞くこともできるため、練習のモデルがあって使用しやすいといえる。「桃太郎」を基本としてオリジナル劇を創作する場合は、これらの「セリフ1」と「セリフ2」は基本のセリフとして有効に利用し、オリジナルな「セリフ3」を加え、吟味していく。

表1 セリフ1からセリフ3へ

シーン 10	セリフ1	セリフ2	セリフ3
	Hello, Momotaro. How are you? I'm good.	Hello, Momotaro. Hi, Monkey. How are you? I'm good. How are you? I'm very fine. What's this? It's <i>kibidango</i> . A <i>kibidango</i> , please. OK. Here you are. Thank you.	Hi! What's your name? My name is Momotaro. Do you like <i>kibidango</i> ? How many <i>kibidango</i> ? Let's share.

[2] [3]

## 4.2 オリジナル度

オリジナル度はどの程度にするのか、基本ルールはどうするのかを決めておく必要がある。小さく変えるか、大きく変えるかである。基本となるセリフに、児童の言いたいセリフを足してオリジナル劇化する方法は、比較的小さい変化で済み、負担も少ないと思われる。

また、“Hi, friends! 2”に記載されている絵や、他の「桃太郎」の絵本を見せながら、自分が登場人物になったとしたら、どのように感じたり思ったりするか、どんな言葉を言ったりするかを考えさせて、自由に言わせ、児童の共感が得られるセリフを考えていくこともできる。

何度も「セリフ2」を聞いて、どのセリフに共感するか、自分がそのセリフを言う場合、どのような声でどのような調子で言ったら一番気持ちが伝わるのかを、日本語と英語の両方で表現してみることも必要だろう。同じセリフをグループ内で言い合ってみて、どの言い方が最も効果があるかを考えさせることもよいだろう。ストーリーを展開する上で、絶対に必要なセリフや伝えたいセリフはどれかを考えることも必要となる。

セリフの増減だけでなく、登場人物の一部を変えたり、ストーリーを変えることもできるが、際限なく変えることにならないように、前述のとおり、児童には基本ルールを守ることを伝えておきたい。ストーリーを一部変える場合は、日本語版「桃太郎（ももたろう）」の絵本は沢山の種類が出版されているので、児童に比較させたり、国語と関連づけたりもでき、興味深い活動となるだけでなく、ヒントにもなるだろう。絵本のバリエーションについては後述するが、教師は予め「桃太郎」について知っておく必要があると思われる。

## 5. 外国語活動における英語劇

### 5.1 学習指導要領

英語劇と学習指導要領における外国語活動の目標とはどういう関係にあるのだろうか。英語劇を行なうことにより、英語のセリフで劇を演じることは、まさに「体験的に理解を深める」ことであり、相手を意識して演じることは「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」であり、セリフと劇の練習は「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」ことである。このように、英語劇は外国語活動の目標に一致する活動であるといえる。

### 5.2 コミュニケーション度

萬屋（2011）はカリキュラムの「コミュニケーション度」を測るチェックリストとして以下の項目を提示している。萬屋のオリジナルのチェックリストは、項目の右側にA蘭（はい）とB蘭（いいえ）があり、どちらかをチェックするリストとなっている。ここでは英語劇に対するチェックリストとして、右側を西崎が改編して使用させて頂き、結果としてすべての項目で英語劇がこのチェックリストにあてはまることを示すことにする。

表2 「小学校外国語活動における授業・カリキュラムの「コミュニケーション度」  
チェックリスト」より

●カリキュラム全体について		英語劇の場合
1	単元・学期・学年のどこかに児童が取り組むべき出口があるか	英語劇の発表が出口にあたる
2	児童が興味をもつトピックや取り組みたい活動が多くあるか	伝えたいストーリーやセリフを児童が考えることにより興味が持てる。
●授業のメインとなるコミュニケーション活動について		
3	各活動には、ただ尋ね合うこと以外に「目的」があるか	セリフに思いをのせて伝え、演じる目的がある。
4	相手が知らない「新しい情報」のやりとりが行われているか	劇のセリフは聞く側にとって、新しい情報である。
5	子どもたちにとって「価値ある情報」がやりとりされているか	皆で作る劇のセリフとして価値のある情報のやりとりである。
6	どの子も、誰とでも話すことができていたか	セリフを伝えることにより、役同士、役から観客へと話すことができる。
7	話す態度だけでなく、聞く態度・反応も意識させているか	セリフは相手のセリフを聞いて反応するものである。
8	コミュニケーション活動の前に使う表現に慣れているか	既修表現を使い、セリフを練習することにより表現に慣れる。
9	使う表現は長かったり難しすぎないか	できるだけ短く、負担のないセリフにすることにより達成できる。
10	英語が得意な子だけが楽しい活動になっていないか	全員がセリフを言い、劇を演じる一員として楽しく活動できる。
11	英語の上手・下手を意識させる授業になっていないか	各自が自分のセリフを言うことにより、上手下手を越える授業ができる。
12	子どもたちは外国語活動の時間を楽しみにしているか	楽しい英語劇を行なうことにより達成できる。

[4] 萬屋隆一（2011）「I部 基本的課題」直山木綿子（編）（2011），『小学校外国語活動モデル事例集』教育開発研究所 より右側を改編

### 5.3 英語教育

学習指導要領ならびに萬屋のチェックリストに加えて、佐野（1990）は英語教育の上から、英語劇が効果的な理由について、次の8点を挙げている。

- 「1. コミュニケーションに関わる心理的要因を強化する。
2. 「聞く」「話す」言語活動としてすぐれている。
3. 非言語的手段と結び付けて英語を理解し表現する。
4. 場面や文脈のなかで英語を理解し表現する。



5. 英語での自己表現力を伸ばす。
6. 楽しみながら英語を学ぶことができる。
7. 生徒に英語学習の目的意識と成功感を与える。
8. 英語劇はALTとの共同作業の絶好の機会となる。」〔5〕

これらの点においても、「桃太郎」の英語劇は、すべて当てはまることとなる。以上のとおり、英語劇は外国語活動の目標を達成できる活動であり、コミュニケーション度の上でも効果の上でも、申し分のない活動として位置付けることができる。

## 6. 民話としての「桃太郎」

「桃太郎」について児童はどういうストーリーか知っているだろうか。知っている場合でも互いの「桃太郎」を聞いてみると、全く同じではなく一部異なっているところがあることに気付くことになるだろう。元々民話として語り継がれてきたこの話は、昔も今もストーリーは一つではない。どうしていろいろな話が存在するのかを、児童に考えさせることもできるだろう。そして日本の伝統文化としての民話について知るよき機会とすることもでき、国語と関連させた発展的展開も可能である。

その昔囲炉裏端で、子どもたちに話して聞かせて伝承されてきた民話は、夜の楽しみであり、子どもにとっては、お話の中に込められた教えやことばを学ぶ大切な時間でもあったと思われる。「桃太郎」の場合、貧しく、子どもがおらず、仲良く、つつましく暮らしていたおじいさんとおばあさんのところに、他の多くの民話に見られるような異常誕生によって桃太郎がやってくる。二人は自分たちの食べ物を減らしてでも桃太郎にたくさん食べさせ、大きくなるように願いながら大切に育てあげる。桃太郎は一部成長過程において怠け者になるバージョンもあるのだが、立派に大人の男となり、悪を退治した後、おじいさんとおばあさんのところに戻ってきて一生幸せに暮らす。

民話に登場する物や登場人物には、いろいろな意味が込められており、その解釈もいろいろである。再話が繰り返されることで、その時々を時代を反映した解釈がされたり、小道具なども変化していつている。昔とは生活習慣が大きく異なるため、伝承されていた当時の内容そのままでは、絵本にしても児童が理解できないことも少なくないだろう。食べ物についても同様で、「桃太郎」におけるきびだんごは、餅や、米粉を使用しただんごではなく、とうきび（こうりゃん）で作られた質素なだんごであり、そのことも児童には説明等があれば理解も深まるだろう。きびだんごで千人力になるほどの食生活とはどんなものだったのか。その生活の中で、桃太郎を、子どもを育てることはどういうことだったのかななどを想像させてみたい。

子宝という語があるように、子どもに恵まれ、夭折することなく丈夫に育てることの困難さも、現代とは比較にならなかったことだろう。子どもの健やかな成長は何者にも代えられない願いだったのではないか。そこに込められた昔の人たちの思いがこの民話の中にも込められているのではないか。鬼退治は目的ではなく、立派に成長した証としての行動と考えられる。

話の中の小道具について、昔鬼が持っていた宝物には、透明人間になれる「かくれみの」、欲しいものが手に入る如意宝珠、打ち出の小づち、珊瑚などがあつたとするストーリーもあるが、もはや現代の子どもたちにとって、それらの宝物としての価値を理解しがたいためか、それらの具体的記述はほとんど見られなくなっていることも注目に値する。

「桃太郎」については、ストーリーが時代と共に意図的に変更され、国策に利用されてきた経緯もあり、他の民話とは異なる歴史があつたことも教師は知っておく方がよいだろう。

## 7. 絵本にみる「桃太郎」の比較

### 7.1 15冊の「桃太郎（ももたろう）」

民話としての「桃太郎」が諸説あるのと同じく、現在市販されている絵本の「桃太郎（ももたろう）」の話もひとつではない。以下の15冊のストーリーの多様性について述べたい。

表3 絵本「桃太郎（ももたろう）」

出版年順

#	出版年	著者	書名	出版社	画
1	1965	松井 直	ももたろう	福音館書店	赤羽末吉
2	1967	おおかわ えっせい	ももの子たろう	ポプラ社	みた げんじろう
3	1978	沖野 皓一ほか(編)	桃太郎『日本の民話 東海北陸』	ぎょうせい	—
4	1978	稲田 和子ほか(編)	桃太郎『日本の民話 山陽』	ぎょうせい	—
5	1979	寺村 輝夫	ももたろう『日本むかしばなし 1』	あかね書房	ヒサ クニヒコ
6	1998	大川 悦生	桃太郎（一般型）『日本の民話』	実業之日本社	—
7	1998	大川 悦生	桃太郎（寝太郎型）『日本の民話』	実業之日本社	—
8	1999	馬場のぼる	ももたろう	こぐま社	馬場のぼる
9	2001	千葉 幹夫	桃太郎	講談社	齋藤 五百枝
10	2002	松谷 みよ子	『松谷みよ子の民話 上』	筑摩書房	—
11	2002	松谷 みよ子	ももたろう	フレーベル館	瀬川 康男
12	2005	代田 昇	ももたろう	講談社	箕田 源二郎
13	2009	広松 由希子	ももたろう	岩崎書店	伊藤 秀男
14	2009	山下 明生	ももたろう	あかね書房	加藤 休ミ
15	2010	市川 宣子	ももたろう	小学館	長谷川 義史

### 7.2 ストーリーの多様性

どのストーリーも、おじいさんは山へおばあさんは川へ行くところから始まる（場面A）。おじいさんはほとんど「柴刈り」に行くのであるが、一部は「たきぎ取り」としており、「木を切りに」と書いてあるものもある。一方おばあさんは例外なく、「せんたく」に行くことになっている。柴やたきぎを知らない児童が多いだけでなく、柴刈りは「芝刈り」と納得してしまう児童もいる。

また、2では「いろりさきて、火っこあたれ。」と伝承であることをはっきりと書き記してお

り、最後は、「すききらいいわねで、まんまだのさかなだのどっさりたべて、ももの子たろうのようにおつきくならねであ。」で締めくくられている。ここに民話としての「桃太郎」の意味が込められていると考えることもできる。同様に3では「おまえら、むかしばなしを、いいことがあるから聞けよ。」で始まり、「そこでね、やっど、子どもがなくても、いいお婆さんやお爺さんになれば、そういういい子が授かって、ね、流れてきても授かって、お爺さんやお婆さんを見てくれると。そんで、心がけが人間はよくなければいかん。やさしくなくちゃいかんよ。」で終わっている。

桃が流れてくる場面（場面B）では、3を除くすべての本でその音が擬声語で表現されているが、驚くことに同じ擬声語が使われているものはなく、すべて異なっている。いろいろな地域で伝承される過程で、擬声語に方言が入りやすいことも原因として考えられると同時に、それぞれの地域の方言の豊かさを感じさせるといえる。

おばあさんが流れてくる桃に対して（場面C）、桃をその場ですぐ食べる場合がある。桃を持ち帰ろうと、こっちへ来いという内容の歌を歌う場合もある。持って帰った桃を戸棚にしまう場合とその記述がないものがある。おじいさんに食べさせようと桃を大事にするおばあさんの気持ちの表れでもある。いずれの話においても、二人は仲がよい。桃を食べたお婆さんが若返って桃太郎を産むという回春型と呼ばれる型も存在する。桃は豊穰の果実とされる説や、つくりにある兆は数多くを意味するとする説もある。

桃を食べようとするおじいさんとおばあさんの前で、桃太郎がいよいよ誕生するが（場面D）、桃を割ろうとする場合と切ろうとする場合がある。桃太郎の産声にも絵本による違いがあるが、場面Bのようにすべて異なっているわけではなく、似かよった擬声語になっている。桃が流れてくる場合と異なり産声は同じように聞こえることから、ある程度限定された表現になったのではないかと考えられる。命名については、桃から生まれたから桃太郎という記述がほとんどの絵本で見られる。

下の表4は、15冊の場面AからDまでの「場面別一覧表1」であり、○の記述は同じであることを、一は記述がないことを示す。例えば、山へ柴刈の欄に○がある場合は、同様の表現があることを示す。以下、表5「場面別一覧表2」ならびに表6「場面別一覧表3」も以下に掲載する。同様かどうかの解釈とそれ以外の表記は西崎個人によるものであることを了解頂きたい。表内の表記は原文のままの引用を基本としているが、一部改編し、引用部分の頁等の表記は省略した。

表4 場面別一覧表 1 (はじまり～命名)

#	A：山と川へ		B：桃が流れてくる擬声語	C：流れてきた桃をおぼあさんは			D：誕生			桃から生まれて命名
	柴刈洗濯	たきぎとり洗濯		食べる	おいしいもこつちへ来いと歌う	帰って桃をしまう	割ろうとすると	切ろうとすると	産声	
1	○		つんぶく かんぶく	○	○	○	○		ほおげあ ほおげあ	○
2		○	つんぶら つんぶら	○	○	○	○		ほほぎやあ ほほぎやあ	○
3	○		—	食べない	—	—	—	刃をちよつと入れたら	キヤーツ	○
4	○		ドンブリ ドンブリ	二人で食べる	—	—	—	○	痛い	○
5	○		トンブク ツンブク ツンブク カンブク	○	○	○	○		ほほぎやあ ほほぎやあ	○
6		○	ツンブラ ツンブラ	○	○	○	○		ほほげア ほほげア	○
7		木をきりにせんたく	どんぶり こんぶり すっこんごう	○	○	○	○		ほんぎやあ ほんぎやあ	○
8	○		つんぶ かんぶ つんぶ かんぶ	食べない	—	—	—	○	おぎやあー	○
9	○		どんぶりこっこ すっこっこ	食べない	—	—	—	○	—	○

10	○		どんぶり かっしり つつこんご	○ ふたりで たべよう 食べない	○ じいさんに	○ とだな	—	○	ほほげあ ほほげあ	○
11	○		どんぶり かっしり つつこんご	○ 食べない	○		○	○	ほほげあ ほほげあ	○
12	○		つんぶか かんぶか	○ 食べない	○		○	○	ほおげあ ほおげあ	○
13		○	どんぶらこ どんぶらこ	○ 食べない	○	○ とだな	手をふれたとた ん、われて	てをふれたとたん	ほんぎやあ ほんぎやあ	—
14	○		どんぶらこ ざんぶらこ	○ 食べない	—	—		○	ほぎや— ほぎや—	○
15	○		どんぶらこ どんぶらこ	○ 食べない	○			たべようとしたと たん	おぎやあ おぎやあ	もたろうと なまえをつ けて

桃太郎の食欲は旺盛で、「一杯食べると一杯だけ、二杯食べると二杯だけ・・・」という具合にどんどん大きくなっていく（場面E）。「一杯」の他、「一椀」や「一日」という別の表現もある。成長を表す擬態語にも種類があり（場面F）、いずれも大切に育てられ、成長ぶりが著しいことを示している。

成長した桃太郎のうち、15冊の中では半分弱の7冊において、桃太郎は何もしない怠け者として書かれている。一緒に仕事に行こうという誘いに対して、いろいろな言い訳をしてなかなか動こうとしないが（場面G）、結局は山へ出かけて行き、大木を丸ごと引っこ抜いて周囲を驚かせる。

いよいよ鬼が島へ行くことになるのだが（場面H）、出発のきっかけがある場合とまったく記述がなく、いきなり桃太郎が言い出すものがある。きっかけは、カラスやトンビなどが飛んできて言う場合もあれば、うわさとして伝わることもある。怠け者だった桃太郎が力持ちであることを見た殿様が桃太郎に頼むという理由もある。桃太郎の出立に対して、おじいさんとおばあさんが桃太郎を慰留する場合と進んで準備を手伝う場合があるが、いずれの場合も桃太郎の意志の強さに変わりはない。きびだんごについては、3個のみ持たせる場合と個数を限らずたくさん持たせる場合がある。

お供となる動物については（場面I）、犬、猿、雉がこの順序で登場するものが多いが、一部は順序が異なっており、他に全く別のものが登場しているものもある。ちなみに、“Hi, friends! 2”においては、猿、犬、雉の順序で登場している。出会う場所についても、桃太郎が最初から海に漕ぎ出して、猿が島や犬が島で出会っていく場合と、山の中へどんどん歩いて行って出会う場合などがある。鬼が島は異界の象徴であり、島であるが海でないところにある場合もある。動物たちのきびだんごの催促の方法はほぼ同じであるが、黍団子の威力については、十人力、百人力、日本一と表記が異なる。また、桃太郎が分け与えるきびだんごの個数も、1個の場合とそれぞれ半分ずつの場合がある。最初から3個しか持っていない場合は、桃太郎と半分ずつ分け合っている。

表5 場面別一覧表 2 (桃太郎の食欲～きびだんご)

#	E：食欲		F：成長	G：怠け癖		H：鬼が島へ		I：お供	J：きびだんご	
	一杯	あり		言い訳	桃太郎自身	慰留	催促		威力	個数
1	○	—	一をおしえ れば十まで わかる	—	出発のきっかけ からすが にわへきて おにがしまのおおがきて、 あっちゃむらでこめとった こっちゃむらで しおとった ひめをさるうておにがしま	桃太郎自身 わたしもおおきくなつたので おにがしまのわいのおにをた いじしにゆきたい につぼんいちのきびだんごを こしらえてください	○	犬→猿→雄 いっしょに やまのほう へ→やまお くへ	一つくだ さい、お ともし ます	十人力 1
2	○	—	—	—	とんびが一わをかい て七つ山こえ七つたにこえ おにがしまさいけつちや おにたいじにいけつちや	とおきくなくたから おにがしまおにたいじにい つてくる かねのわらじ、につぼん一の きびだんご	○	○ 山のなかへ はいつてい くと→いく がいくがた にをこえて いくと	ひとつく ださい、 おともす る	百人力 1
3	麦 ひえ豆	—	—	—	よその国で、鬼が出て困る と、みんなの声が聞こえた	おれがこれから鬼を退治する んかな	—	猿→雄→犬	ぼくにも 一つくだ さいな、 鬼の征伐 について くで	— 1
4	とうきび だんご	—	—	—	—	お婆さん、こりようお餅に作 っておくれえ。鬼が島へかた き討ちに行て、お土産のお弁 当にしますけん	—	牛→そ→ ひき白→ 鉄砲玉→ がに→ 蜂	一つくだ されえ お供いた します	— 1
5	○	ぐんぐん	—	○	—	ある日 おらにきびだんごを こしらえてくれ おにがしまへいつて、オニを たいじしてくる オニは人間 からコメをとったり、たから ものをぬすんだりする、わる いやつだからな 大きなきびだんごを三つ	—	○	一つくだ され、お ともしよ う	— 半分

6	○	むつくら むつくら	—	鬼どもがやってきて村むらをか あらしまわり、むすめだの、 子どもだのをさらっていきま した トンビがももからうま れた桃太郎やア 鬼ガ島さ行 けつちや ビイゴロ	日本一のきびだんごをたくさ んこしらえてくださエ	—	○	ひとつく ださエ、 鬼ガ島ま でおとも する		
7	一日たて ば一日、 ひと月た てばひと 月	みきみき、 むくむく	○ 荷縄 せなあて わらじ	鬼どもがおつて、里へでき ては、女子どもをさらってい きよりました。田畑もあらす し、町や村にわざわいごとを ひきおこす鬼たいじができる 者は、桃太郎さんしかおらん んさい、鬼ガ島へいってくれ んさい、刀も槍もいやならきび だんご	—	—	○	ひとつく れんさい おら、お ともする	日本一	半分
8	なんでも よくたべ て	ずんずん	○ わらじ まさかり	とのさまがとおりがかり そのほうにたのみがある わるいおにどもがあばれで てこまっておる たいじしてくれ	—	—	○	ひとつく ださいお ともしま す	—	1
9	—	—	—	鬼が島の鬼たちがらんぼうを はたらいたり、物をうばった りしているという話が、あち こちからきこえてきました。	ある日、わたしは鬼が島にい って鬼をたいじしてこようと 思います	—	○	ひとつく ださいおと もします	日本一	1
10	ひと椀	どんどん	○ 鎌	—	ある日むつくり起きて、 きびだんごしてくれえ、 鬼が島に鬼退治にいってくる とうきびだんごのでつかいの を三つ	—	○ 犬ガ島 ちっこい島 雉ガ島	ひとつく ださい されい	—	半分
11	ひとわん	ずんが ずんが	○ かま わらじ せなあて	—	あるひむつくりおきると わるいおにをたいじにおにが しまへいく きびだんごをつくつてもたせ てくれえ	—	○ ちっこいし まきじのしま	ひとつく ださいお ともしま す		半分



12	ひとわん	ずくん	○	ぞうり かま	おにがしまのおおにどもがむら をあらしにやってくる、し お、こめ、あわをうばったう えに、わかいむすめっこみん なさらっていったわさ	あるひとつぜんむくりつとお きあがり、いくときめたらら みつつくつてくれや	—	○ いぬがしま さるがしま きじがしま	ひとつだ されなか まになろ う	にっぽん いち	半分
13	一ばい	ずんずん	○	わらじ かま しよいこ	ももたろうをよんでまいれ とのさまはももたろうにおに がしまにおにたいじにいくよ うにとめいじました にんげんのくにおおせい、子 どもをさらってゆく		—	○	ひとつく ださい おともし ます。	ひやくに んりき	半分
14	きびだん ご	—	—	—	おにがしまのおおにがやってくる てはたけをあらし、むすめ をさらい、おしろのだからも のまでぬすんでいくのじや	それならわたしがわるいおに をたいじしましよう ありつたけのきびでだんごを どっさりつくつてくさい	—	○	ひとつく れたらお ともしま す	—	2つ
15	ごはん	—	—	—	ふもとのむらでわるいおにの はなしをききました むらやみやこへたびたびあら われてはらんぼうをはたらき 田はたをあらし、こめやたか らをうばっていく	どうかおにがしまにおにたい じにいかせてくさい おいしいきびだんごをたくさ ん	—	○	ひとつく ださいお ともしま す	千人カ	

お供をつれての道中では（場面K）、山や谷、海を越えて行く場合と、海のみを渡っていく場合に加え、山の中に進むものもある。鬼が島には（場面L）大きな門があり、鬼との戦い（場面M）ではお供の動物たちがそれぞれの得意な方法で活躍する様子が描かれる。戦いに敗れた鬼は（場面N）、宝物を差し出すのだが（場面O）、その理由として助けてくれたお礼として、今後悪いことをしないしるしとして差し出す物として、盗んだものなので返すためになど、様々である。前述のとおり、宝物の具体名は書かれていないが、絵は昔ながらの宝物（珊瑚や打ち出の小槌など）が描かれている。宝物を受け取らないストーリーもあり、連れ去られていた人質の解放が伴うものもある。一部にはさらわれた姫を助け、村に帰って嫁にする結末もある。

このように、「桃太郎」のストーリーは全編にわたって数多くの再話により、たいへん多様なものとなっている。表面的に鬼退治としてのストーリーを追うだけに終わらないように、教材としての桃太郎が活用されることを望みたい。

表6 場面別一覧表 3 (道中～終わり)

#	K：道中	鬼が島			O：宝物	P：終わり
		L：島	M：鬼との戦い	N：鬼の降参		
1	やまこえ、 たにこえ、 うみをこえ	おおきな もん	さるがへいをよじのぼってもんをあける きじはそらからせめかかる	とてもかかないませんいのちばか りはたすけてください もうきつとわるいことはしませ ん たからものはみなさしあげます いのちばかりはごかんべん おれいのもりだろう あれやこれやのたからものをた くさんだしてきた	いらん おひめさまをか えせ	おひめさまをおよめにもら って おじいさんおばあさんとい つまでもしあわせにくらし ました
2	七つ山こえ、 七つたにこえ うみへ出た なみをのりこえ、 うみをわたった	まつくろ いてつの もん	きじがとんでいって、そらからなかのおうす をみてる さるがもんのりこえて、かぎをひきぬく いぬがどどーんととおしあける いぬがかみつく、 さるがひっかく、		もらってふねに のって、おにが しまをあとにし た くるまにつんで もどってきた	たからものをみんなにわけ てやる いぬさるきじにもごちそう じいさまとばあさまとずう つとなかよくくらしただそう な
3	山へ行っただころが	—	きびだんごを食べて、腹をこさえて、そうし てかからまいかといって、かかって行って、			
4	鬼が島あどこならな お婆さんが山あしに 行つとる	—	峰が目を刺す 鉄砲玉が目をくり抜く がにが手を切る 牛ぐそが出てきて ひき白が落ちてきて 鬼はええぐあい死にました	倉開けてやろう 宝もんがあるうもしれん	車に積んで 桃太郎のおてが らもん	宝もんを取てもどって、 そいでまああひとむかし
5	海に出ると、ふねに のりこみ	やしきの 門	キジが門をこえて中からしんぼりぼうをはず して イヌは足にくいつき、サルはひっかき、キジ は目をつつく ももたろうはオニの対象を くみふせて	どうかたすけてください いま までぬすんだたからものは、み んなかえます	船につみ もどってきた	
6	山をこえ、海へへで ると、お気にぼつり とうかんだ鬼が島へ おしわたりました	大きな黒 い門	桃太郎たちはきびだんごをたべて、百人力、 千人力	いやや、とてもかかないません 命ばかりはおたすけてください なんでもさしあげますだ	むすめや子ども をたすけ、鬼ど もの金棒や刀は みな海の底へす てさせ、宝物を たくさんさした させました	一の車には、たすけた人た ち、二の車には宝物をのせ て、えんやらや、えんやら やとかがえつてきましたと

7	海へ出ましたので 大きな木を十本ばかり ひきぬいて、いか だにくんで、鬼ガ島 におしわたりました	鉄の門	あとはんぶんずつきびだんごをたべさせ、じ ぶんもひとつたべてみなみな千人力 いぬはかみつくし、さるはひつかくし、きじ はくちばしでつつきまくる	いてててえ 宝物はあるだけ桃太郎さんにさ しあげるけん、どうか、いのち ばかりはごかんべん	宝物ももらって いくが、里から さらってきよつ た女子どもも、 みなかえしてく れい いかにのせ 車につんで	桃太郎さんおてがらじゃあ 大いびきをかいてねてしま いました
8	あらなみのりこえず んずんずんで	てつのも ん	さるがうちがわからもんをあける	いのちばかりはおたすけくださ れえ	たからものをほ こんできて これはおわびの しるし	じさまとばさまのところへ かえっていきました
9	海にでました 船を 用意 なん日も海の上をは しりました。		きじは門のうちがわにとんでいて、 門番の鬼の目をつついておいておいはらい、 さつと門をひらきます	さんごやうちでのこづちななどた くさんの宝物をさしだして もうけつてわるいことはいた しません。そのしるしに、この 宝物をおうけとりください	宝物をのこらず 船につみこむ 宝物を車につみ かえました	みんなでぶじをいわって宝 物をわけあいました
10	ぎつちらもつちら船 こいでどこまでもい く	鉄の門	雉が門を越え中から鍵をあける 猿はひつかく、犬は足に食いつく、 雉は目ん玉ほじくる 桃太郎た鬼をたきたきつ ぶす 鬼は降参	どうぞ許してください。ここに にある鬼の宝物はみんなあげま すけん	船に積んでこい で帰る	村じゅうがよろこんで、お 祝いました
11	ぎつちらもつちら ふねをこいでいく	てつのも ん	きじがとんでいて、ばんべいのおにををつ つきちらかしなからかもんをぎい一つとあけ た さるはひつかく、いぬはかみつく、きじはめ んたまほじくる	どうぞゆるしてください。いぬも もうわるいことはいけませんけ ん、ここにあるおにほたからも のはみんなさしあげます。	ふねにつんで くるまにのせて	じいさまとばあさまのどこ ろにもどった むらじゅうおおよろこび
12	ぎつちらぎつちら		きじがもんのかぎをあけた いぬはかみつ く、さるはひつかく、きじはそらからつ きまわった	いのちばかりはおたすけくださ れ むすめっこ、しお、こめ、あわ はおかえしもうす おおきなふねと、きん、ぎん、 さんごもおあげもうす	おおきなふねう たつておどつて いわった	むらにかえるといちばんお きにいらのむすめっこをよ めにもらつてほくほくよろ こんだ ももたろうふうふはじつさ まやばつさまとなかよくだ のしくくくりましたつてき

13	山をこえ、うみをわたり	もん	きじはそらをとべるので、もんをこえ、うちがわからかんぬきをはずしました。いぬはかみつく、さるはひつかく、きじはつつく	どうぞいのちばかりはおたすけくださいぬすんだたからはもどしますこどもたちもかえします	またうみをわたり	おじいさんとおばあさんがまっているいえに、みんないでいっしょにかえりましたとさ
14	ふねをだしましたしまはいくつもあるてどれがおおにがしまかわかりません	がんじょうなもん	きじがもんぼんがのみのこしたつよいさけをたき火の上からぶちまけましたいぬはかみつき、さるはひつかき、きじはつつき けとばします	こうさんします もうねるいとほしませんからいのちだけはおたすけを	むすめたちとたからものをせてもたろうとけらいたちがかえつてきました	おじいさんもおばあさんも村びとたちもおしろのどのさまもおよろこびきびだんごをどさつきつくりおいわい
15	山をこえうみをわたって	てつのもん	さるがするするともんをこえてかんぬきをあけましたいぬがおおにのあしにかみつきます。さるはからだをひつかかきます。きじはあたまをつつきます。	まいました もうしませんどうかおゆるしくださいとたからものをさしました	たからの山をおみやげに、うみをこえ、山をこえて	おじいさんとおばんさんのまつ小さないえにかえってきました

## 8. おわりに

外国語活動の総仕上げとして、「桃太郎」を使ったオリジナル劇を行なうことは、児童にとって大きな効果が期待できるが、教師にとっては負担が大きいと感じるLessonであるだろう。外国語活動の授業というだけでなく、日頃の学級経営の成果も反映されるだろう。英語の定着を目指さないとされる外国語活動ではあるが、卒業を間近に控えた6年生の目の前には、新学習指導要領下での中学英語の授業が待っている。自信を持って自分の気持ちを伝えた感動と楽しかった体験を持って、彼らを中学へと送り出したい、送り出してもらいたい。そして中学でしっかり受け止めてもらいたいと願うところである。

### 《引用文献》

- [1] 秋山和江 (2010). 『コミュニケーションを図る楽しさを体験する外国語活動の在り方—英語劇を取り入れた活動を通して—』 山梨県総合教育センター.
- [2] 文部科学省 (2012) 『Hi, friends! 2』 pp.26-37
- [3] 文部科学省 (2012) 『Hi, friends! 2』 指導編 pp.26-37
- [4] 萬屋隆一 (2011) 「I 部 基本的課題」直山木綿子 (編) (2011), 『小学校外国語活動モデル事例集』 教育開発研究所. p.13
- [5] 佐野正之 (1990). 『英語劇指導マニュアル』 玉川大学出版部. pp.11-15

(以下は15冊の絵本。引用部分表記は省略。)

- 馬場のぼる (1999). 『ももたろう』 こぐま社.
- 千葉幹夫 (2001). 『新・講談社の絵本③ 桃太郎』 講談社.
- 広松由希子 (2009). 『いまむかしえほん2 ももたろう』 岩崎書店.
- 市川宣子 (2010). 『日本名作おはなし絵本 ももたろう』 小学館.
- 稲田和子・立石憲利 (編) (1979). 『日本の民話 山陽』 ぎょうせい.
- 松居直 (1965). 『ももたろう』 福音館書店.
- 松谷みよ子 (2002). 『読んであげたいおはなし 松谷みよ子の民話 上』 筑摩書房
- 松谷みよ子 (2002). 『日本むかし話 5 ももたろう』 フレーベル館.
- 野村純一 (1998). 『昔話の森 桃太郎から百物語まで』 大修館書店.
- 沖野皓一・加納妙子 (編) (1978). 『日本の民話 東海・北陸』 ぎょうせい.
- おおかわえっせい (1967). 『ももの子たろう』 ポプラ社.
- 大川悦生 (1998). 『子どもに聞かせる 日本の民話』 実業之日本社.
- 代田昇 (2005). 『新装版 ももたろう』 講談社.
- 寺村輝夫 (1979). 『寺村輝夫のむかし話 日本むかしばなし1』 あかね書房.
- 山下明生 (2009). 『日本の昔話えほん・1 ももたろう』 あかね書房.

### 《参考文献》

- 小さい劇の本 編集委員会編 (1991). 『小学生 小さい劇のやりかたハンドブック』 国土社.
- 岐阜県本巣市立真桑小学校 (2011). 『平成23年度 本巣市立真桑小学校授業公開 (地域公開) 指導案集・実践資料集』 平成23年11月18日、pp.11-19.
- 茨木喬史 (2012). ビデオによる研究授業と研究協議「達成感や楽しさを味わわせるタスク活動の工夫 (6年生) — 『英語ノート2: オリジナルの劇を作ろう』 を通して—」 日本児童英語教育学会関西支部第12回英語活動研究会、平成24 (2012) 年9月15日、キャンパスプラザ京都

- 稲田浩二・稲田和子 (2010). 『日本昔話ハンドブック』三省堂書店.
- ジャパンタイムズ (編) (2005). 『英語で読む日本昔ばなし Book 1』ジャパンタイムズ.
- 上江洲隆・下地陽子・幸喜めぐみ (2008). 『コミュニケーション能力の素地をはぐくむ指導の工夫—英語ノートの単元「オリジナル劇をつくろう」を通して—』沖縄県立総合教育センター.
- 菅正隆編著 (2008). 『すぐ役立つ! 小学校英語活動ガイドブック』ぎょうせい.
- 菅正隆編著 (2012). 『“Hi, friends!” 指導案&評価づくりパーフェクトガイド』明治図書.
- 小長谷有紀 (編) (2006). 『「大きなかぶ」はなぜ抜けた?—謎とき世界の民話』講談社.
- 文部科学省『英語ノート 2 指導資料』
- 文部科学省 (2012). 「学習指導案 Hi, friends! 2 Lesson 7」『“Hi, friends!” 関連資料』  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2012/03/29/1319015\\_16\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2012/03/29/1319015_16_1.pdf)
- 直山木綿子編著 (2011). 『教育技術MOOK よくわかるDVDシリーズ 英語ノート2を活用した英語動の授業』小学館.
- 直山木綿子編著 (2009). 『教育技術MOOK 小学校新学習指導要領の授業 外国語活動実践事例集 II』小学館.
- 西崎有多子 (2012). 「小学校外国語活動におけるオリジナル劇の可能性—新教材“Hi, friends!”より『桃太郎』を使って」『東邦学誌』第41巻第1号
- 斉藤誠・遠藤昌一『旭川グループ実践成果発表 英語劇を通して英語による実践的コミュニケーション能力を高める授業』北海道教育大学附属旭川小学校、平成19年2月17日  
<http://www.hokkyodai.ac.jp/pdf/en/en-asa18.pdf#>
- 東京書籍 (2012). 『Hi, friends! 2ベーシック指導事例カード』
- 東京書籍 (2012). 『Hi, friends! 2ベーシック指導事例カード 英訳版』

本研究の一部は、科研費JSPS24520718の助成を受けたものである。

受理日 平成24年10月1日